

3 / 26
仏滅 水

旬のもの

味醂(みりん)

焼酎に、米麴と蒸したもち米を混ぜ、発酵、分解させてつくったもので料理に風味やコク、つやをつける調味料として和風料理に欠かせません。みりんは、日本特有の調味料とも思われがちですが、戦国時代に中国から伝わったとする説があります。旬はとくになく、一定の酒精、糖分を含んでおり、砂糖よりも高級な味がします。芳醇な香りもあり、普通のみりに、さらに焼酎を加えてアルコール度を上げたのが「直しみりん」といわれ、そのまま飲みます。みりんの用途は広く、そばや天ぷらのつけ汁、蒲焼き、照り焼き、煮ものなどに用い、イワシ、サバ、サンマをみりんにつけて干したものが、みりん干しです。

楽聖忌

数多くの交響曲を作曲し「楽聖」と呼ばれたドイツの作曲家ベートーベンの命日(1827年)。当時、葬儀は2万人が駆け付けるという異例の規模となったそうです。

犀星忌

1962(昭和37)年のこの日、詩人や小説家として知られる室生犀星が肺がんのため享年72歳で亡くなりました。高村光太郎とともに口語自由詩を完成させた人物だといわれており、現代の詩人にも多大な影響を与えています。お墓は、故郷である金沢の大東寺にあります。

3 / 27
大安 木

旬のもの

山女魚(やまめ)

サケ科。天然ものの旬は3月頃の解禁日以降です。秋から冬は禁漁。市場に出回るのはほとんどが養殖ヤマメですが天然と見分けが付きません。

ヤマメは山奥の清流にすむ魚です。その美しさから、山女魚とも書き、溪流の女王とも呼ばれています。地方によってアマゴ、ヤマベ、アナムシ、タナビラなど多数の呼び名がありますが、同じ仲間のイワナに比べ、やや小型ですが、40センチくらいに成長するヤマメもいます。

さくらの日

日本の歴史や文化、風土と深くかかわってきた桜を通して、日本の自然や文化について国民の関心を高めることを目的に、日本さくらの会が1992(平成4)年に制定しました。3月が古代中国で考案された季節を表す方式のひとつである七十二候の「桜始開」の時期であり、3×9(咲く)=27の語呂合わせから3月27日になりました。

仏壇の日

『日本書紀』によると、天武天皇が「仏舎を作り仏像および経を置いて礼拝供養せよ」と説いたのが685(白鳳14)年のこの日だといわれていることから、全日本宗教用具協同組合が制定。飛鳥時代に推古天皇が拝んでいたとされる国宝「玉虫厨子」が、現代に伝わる最古の仏壇といわれています。